

利益蓄積や買収で拡大

日本経済のけん引役として期待される中堅上場企業「NEXT1000」を対象に、総資産の5年間の平均成長率が大きい企業をランキングしたところ、新興のインターネット企業が上位に入った。利益を積み重ねて現金を増やしたケースのほか、M&A（合併・買収）などで事業を拡大した企業も多い。事業再生で立ち直り、工場へ積極投資する地方の老舗精密部品メーカーもあった。

ファーストロジックは投資用不動産の情報サイト、「楽待（らくまち）」を運営する。ネットを使って不動産情報の透明性を高め、個人から支持を集めている。掲載する物件数は6万件を超え、業界最大だ。着実に個人会員を増やし、収益を積み上げてきた。

「楽待」の特徴が、待っているだけでユーザーの希望に近い物件の情報が届く機能だ。ユーザーはまず個人情報のほか、希望する物件の価格帯や地域、利回りなどを登録する。楽待に登録している不動産会社はこの情報を元にユーザーに主に一般に開示していない不動産情報を送付する。検索の手間を省き、「楽待」の由来だ。

個人情報保護を保護するため、個人を特定できる名前や連絡先はユーザーが問い合わせするまで不動産会社に開示しない。ファーストロジックの収入源は不動産会社などから得る「楽待」の利用料のみ。中立性を保つため、物件の成約に伴う成果報酬や手数料は受け取らない。

1位 ファーストロジック

投資不動産 情報に透明性

ファーストロジックは不動産の投資情報を提供するスマートフォンアプリ「楽待」を開発した



15年にはスマートフォン（スマホ）向けアプリを自社開発した。昨年12月には投資家と不動産会社がアプリのメッセージ機能を通じて手軽にやり取りができるよう機能を刷新した。創業者の坂口直大社長はもともITコンサルタントで、創業会社のシステムエンジニアだった。将来の生活設計への不安から資産形成の一環として不動産投資に興味をもった。ただ、「当時

は投資用不動産の情報は富裕層だけで共有され、自分では全く得られなかった」（坂口社長）。この経験を元にひとりで立ち上げた不動産情報の専門サイトが、現在の「楽待」の原型になったという。

15年2月の上場時に約5万人だった「楽待」の会員数は、足元では約13万人に増えた。18年7月期の単独税引き利益は上場前に比べ3倍に拡大。収益の積み重ねで総資産額は6倍強に膨らんだ。潤沢な手元資金は、「人材投資と将来のM&A（合併・買収）に充てる」（坂口社長）方針という。

人材投資では、「楽待」のニューズ部門の編集者を増やす。同部門は不動産投資に必要な基礎知識から、専門家によるトレンドの分析まで、幅広い情報を提供している。現在は10人弱が編集に携わっている。動画の拡充などを見据え、新たに専門人材を獲得する方針だ。

経営目標は「売上高営業利益率で50%、従業員1人当たり経常利益で2000万円」（坂口社長）。この実現に向けてM&Aも含め成長投資を検討中だ。スルガ銀行の不正融資問題をきっかけに、投資不動産については逆風が吹いている。ただファーストロジックは不動産市場の透明性向上を目指す。誇大広告や不正物件を掲載した企業には利用停止など厳しい措置をとっている。坂口社長は「影響は大きいですが、市場が健全化されるのはむしろ追い風」としている。

10位 パルマ
レンタル収納の運営受託



パルマはレンタル収納スペース事業者向けに受付や入金管理、滞納催促などを受託する。国内に約400社ある事業者の約6割と取引するのが強みだ。借り手が検索してすぐに予約決済できるサイトも運営する。成長の柱が、自社で土地を取得し、新築した収納スペースを運営する。

「レンタル収納スペースの世帯普及率は現在1%未満。高野茂久社長は「日本の普及率は先進国の中で低水準だが、潜在市場は大きい」と語る。

8位 イトクロ

「塾ナビ」口コミの多さ強み



学習塾の口コミサイト「塾ナビ」の登録ユーザーが主力サービスだ。口コミ件数の多さが強みで、学習塾選びに迷う保護者の人気を集めている。掲載教室数は8万教室、口コミ件数は16万件を超える。

15位 シンメンテホールディングス

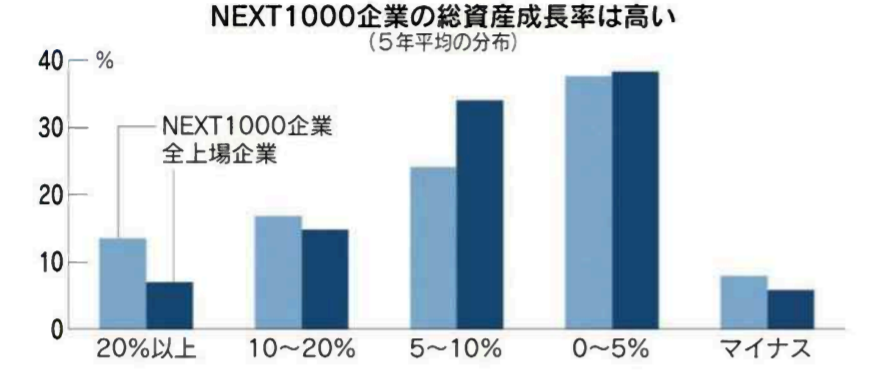
飲食店のメンテ 即時対応



飲食店を中心に水回りや空調設備のメンテナンスサービスを手掛ける。2017年9月に乃村工業社傘下の同業テスコを買収するなど積極投資を続ける。総資産額は5年で約5倍に増えた。

飲食店の経営者にとっても、キッチンやエアコンの不具合は営業中止につながるため、一刻も早く解消したいという。同社は全国のメンテナンス会社と提携。緊急のメンテナンス要請に即時対応できる体制を整える。

企業規模が急拡大している企業				
順位	社名	業容	総資産の5年平均成長率(%)	直近期末の総資産(億円)
1	ファーストロジック	不動産投資サイト	72.3	29
2	デザインワン・ジャパン	店舗情報サイト	71.7	31
3	エンバイオ・ホールディングス	土壌汚染対策工事	67.0	190
4	リンクバル	街コン情報サイト	65.7	20
5	M&Aキャピタルパートナーズ	M&A仲介	56.0	152
6	アイリッジ	スマホアプリによる販促支援	51.9	26
7	データセクション	ビッグデータ分析	49.6	20
8	イトクロ	学習塾検索サイト	49.1	78
9	レントラックス	成果報酬型広告サービス	47.8	28
10	パルマ	レンタル収納スペース	47.6	30



11	ショーケース・ティービー	クラウドサービス	43.5	25
12	エムケイシステム	社労士向けシステム	42.7	21
13	マルマエ	精密部品加工	37.3	80
14	ビジネス・ワンホールディングス	不動産、分譲マンション管理	37.2	148
15	シンメンテホールディングス	店舗設備メンテナンス	36.5	45
16	Hamee	スマホアクセサリ	33.1	50
17	オプティム	システム開発	32.8	36
18	マークラインズ	自動車産業ポータル	32.8	25
19	CRI・ミドルウェア	映像・音声のソフト開発	32.6	42
20	MRT	非常勤医師の紹介サイト	31.3	21
21	アルファポリス	ネット小説などの出版	31.1	56
22	I B J	結婚情報サービス	30.4	62
23	モルフォ	画像処理ソフト	30.2	58
24	エリアクエスト	ビル経営支援	30.1	34
25	プロッコリー	キャラクター玩具	30.1	100

ランキング上位20社のうち、14社が設立20年以内の新興企業だった。いずれも2013~15年にかけて新規株式公開（IPO）した。株式上場をきっかけに成長を加速させ、資産規模を膨らませた企業が多い。

上場で資産増 新興企業多く

一方、異色なのが13位のマルマエだ。1965年設立の老舗精密部品メーカーで、鹿児島県を地盤とする。リーマン・ショック後に業績が悪化し、事業再生A DR（裁判以外の紛争解決）手続きを申請、15年に手続きを前倒しで終了。高い技術力を武器に利益率を高め、工場への設備投資を加速している。